

保育者育成指標		保育者（幼稚園教諭、保育士、保育教諭）としての資質向上における指標モデル				
		四日市市				
ライフステージ	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ	第5ステージ	
	おおむね1年～4年	おおむね5年～10年	おおむね11年以上	副所（園）長・主任・教頭	所長・園長・施設長	
	基礎形成期	伸長期	充実期	次世代育成期	深化・円熟期（管理職）	
資質能力にかか	保育の様々な実践のスキルを磨き、保育者としての基本を身につける。	基礎形成期の多様な経験に実践力を高めるとともに、チーム保育の大切さを認識し、若手保育者のモデルとなる。	多様な専門的知識と経験をもとに質の高い実践を展開するとともに、全園的な視野にたった指導力を身につける。	職員の人材育成を行うとともに、園長を補佐して園の教育・保育目標に向けた取り組みを推進する。	園の経営方針を示して組織的な運営を行うとともに、地域や連携機関と連携をとり取り組みを進める。	
	子どもへの深い愛情と保育者としての責任感や使命感を持ち職務を遂行する。	子どもへの深い愛情と保育者としての責任感や使命感を持ち、同僚の抱える課題に気づき、共に考え指導助言を行う。	子どもへの深い愛情と保育者としての責任感や使命感を持ち、同僚の抱える課題をとりえ、指導助言を行う。	子どもへの深い愛情と保育者としての責任感や使命感を持ち、同僚の抱える課題をとりえ、指導助言を行う。	子どもへの深い愛情と保育者としての責任感や使命感を持ち、職員に対して規範を示すとともに、園の社会的役割を理解して地域と共に園づくりをする。	
	園の役割や機能を理解し、専門職としての資質を高めるために自ら学ぶ意欲を持つ。	自己課題をもって研修に参加し、同僚と課題を共有しながら学び続けようとする。	自己課題をもって研修に参加し、同僚へ自己研修の大切さを示したり、指導力を高める。	探求心を持ち自己研鑽に努めるとともに、園全体の動きを把握しながら職員研修のマネジメントをする。	探求心を持ち自己研鑽に努めるとともに、一人ひとりの保育者の自己実現の場を確保し、園全体の学び合う雰囲気をつくる。	
	高い倫理観に基づき、法令を遵守した教育・保育を展開する。 保護者や子どものプライバシーに配慮し、個人情報の保護を心がける。			高い倫理観をもって、法令を遵守した教育・保育を展開することについて保育者に指導・助言をすることができる。 保護者や子どもの個人情報並びに園運営に関する情報の管理に注意をはらい、職員への情報管理の指導ができる。		
	相手の思いを受け止めるとともに、自らの考えを適切に伝え、子ども、保護者、職員と積極的に関わり、必要な報告・連絡・相談を行う。	組織の一員として、職務を遂行するために必要な報告・連絡・相談を確実にし、子ども、保護者、職員との信頼関係を構築することができる。	子ども、保護者、職員、地域等との信頼関係を構築するとともに、同僚の抱える課題に気づき、共に考え指導助言を行う。	子ども、保護者、職員、地域等との信頼関係を構築するとともに、同僚の抱える課題を捉え、一人ひとりの個性に合わせて指導助言をする。	子ども、保護者、職員、地域等との対話を促進し、信頼関係を構築するとともに、働きやすい職場づくりや地域との連携を進める。	
日々の保育を円滑に進行させるために必要な事務を行う。	日々の保育を円滑に進行させるために必要な事務を的確に行うことができる。若手保育者に助言を行う。	日々の保育を円滑に進行させるために必要な事務を的確に行うことができる。若手保育者に助言を行う。	日々の保育を円滑に進行させるために必要な事務を的確に行うことができる。若手保育者に助言を行う。	日々の保育を円滑に進行させるために必要な事務を的確に行うことができる。若手保育者に助言を行う。	日々の保育を円滑に進行させるために必要な事務について進捗状況を管理し、職員が自信をもって行えるよう、体制を整える。	
保育者に求められる資質	保育者としての姿勢・使命感					
	倫理観・法令遵守					
	コミュニケーション力					
	事務処理能力					
	保育実践力					
教育・保育を担うに必要とされる専門性	こども発達理解・人権意識	子どもと共に行動し、子どもの思いや気持ちを丁寧に感じ取ろうとする。	子どもの発達や個人差を理解し、一人ひとりのよさや可能性を把握する。	発達や個人差の観点から子どもを理解し、保育者が子ども理解を中心とした保育を進められるようにする。	職員が子ども一人ひとりの発達や個人差に基づいて、子どもを多面的な視点で深く理解するよう具体的に示す。	保育者が一人ひとりのよさや可能性を感じ取り、子ども理解を中心とした保育について学び合いの場をつくる。
	保育の計画・評価	要領・指針のねらいや内容を理解し、保育指導計画を作成し実践することができる。	子どもの姿や「幼児期に育てたい10の姿」の視点で保育指導計画を立案し、評価・振り返りを繰り返しながら、見直しを持ち保育をする。	園の行事や日々の保育などで実践の中心的な役割を果たし、職員と実践を振り返りながら長期の年間計画を見直ししていく。	職員との話し合いに積極的に参加し視覚的に提示しながら、子ども中心の視点で年間指導計画の評価・改善に努める。	保育者が全体的な計画を踏まえて長期的な多角的な視点から、よりよい実践ができる園環境をつくる。
	保育内容の理解と実践	保育のねらいや内容を理解し、子どもの興味関心を考慮して、保育を行うことができる。	子どものつづみやきなどから、興味や関心のあることを捉え、活用できる環境を探り、実践を展開することを楽しんで行う。	他クラスや他学年の保育の展開を意識して、園全体の環境を視野に入れて豊かなものや人の関わりを生み出す実践を行う。	各職員の意見を反映しつつ、協働して子どもの主体的な遊びを保障するための環境構成を職員と共に作っていく。	地域や園の実践を踏まえ、よりよい保育の実現に向けて、環境の維持改善に努める。
	特別な配慮を要する子どもの保育	日常の姿から一人ひとりの発達や特性を理解し、その援助を知ったり工夫する。	園と集団の育ちを意識して、一人ひとりの発達や特性を捉え、必要な援助を行う。	保育者のモデルとなり、子どもたち（集団）の援助をするとともに、子ども一人ひとりに応じた適切な援助をする。	各職員が一人ひとりの興味や発達に沿った環境づくりや援助を適切に行えるよう、指導助言する インクルーシブ保育の視点で職員と保育を振り返る機会をつくる。	保育者が子ども理解の基に、一人ひとりに応じた援助を適切に行えるよう、学び合いの場をつくる。
	組織としての園の理解と運営	園の保育目標や組織を理解し、責任を持ってクラス運営をする。	園の保育目標や組織を理解し、後輩に助言をしながら、組織のミドルリーダーとして園務の遂行に努める。	園務について理解を深め、組織として中心的な役割を自覚し、よりよい園経営に向けて、園務を遂行しながら改善を提案する。	職員の関心や立場、負担などを踏まえて、所長・園長を補佐しながら、よりよい園務の改善や遂行に努める。 問題解決に向けて、組織として対応できるようにする。	園の課題を踏まえて、園務分掌の改善を図る。 園の保育目標やカリキュラムを全職員に周知を図り、園全体の「保育の質の向上」に努める。
職員間の連携	組織の一員としての自覚を持ち、報告・連絡・相談の連携の大切さを知る。	組織の一員としての役割や責任を自覚して、報告・連絡・相談など園内のチームワークを考えて行動する。	それぞれの立場の職員と積極的に話をして理解を深め、よりよい実践になるよう保育者間の連携を図る。	職場の人間関係が円滑にいくような雰囲気づくりをし、園長を補佐するとともに、職員と信頼関係を築き、必要に応じて職員を支援したり温かく見守る。	保育者一人ひとりのよさを生かした役割を意識して、保育者間の連携が深まる体制づくりに努める。 園の問題や課題を子どもにとってどうなのかという視点で解決に導いていく。	
健康・安全と危機管理	健康面・安全面などの危機管理を理解し、マニュアルに沿った環境を整える。	園全体の危機管理について自分の役割を理解し、危険を察知し、すぐに発信し行動する。	園長を補佐し、危機管理のためのマニュアルを整備し、園内体制を確立する。	園長を補佐し、危機管理のためのマニュアルを整備し、園内体制を確立する。	危機を予測し、危機管理のためのマニュアルを整備し、園内体制を確立する。	
家庭との連携子育て支援	保護者の気持ちに寄り添い受けとめながら、子どもの姿を共有し、保護者との良好な関係を築く。	相談しやすい雰囲気をつくり、保護者の思いを受容的に受け止め、家庭との信頼関係を築く。 教育・保育の意図を保護者に伝える。	保護者同士の関係をつなぎ、保護者が育ち合う場を提供する。 保護者に教育・保育の意図や遊びや体験を通しての子どもの育ちを伝える。	園内で役割分担をしながら、組織として保護者を支援するための役割を担う。 苦情処理能力を身につける。	必要に応じて関係機関と連携できる体制を整え、園全体の連携する力を高める。	
地域・小学校・関係機関との連携	地域の特性について理解する。 幼児期の終わりに育ってほしい姿を理解して実践する。	地域の特性について理解し、連携・協働の大切さに気づき、保育に取り入れていく。 育みたい資質・能力について理解し、学びや発達を見通した計画及び実践を行う。	様々な機会を通して子どもや保護者と地域とのつながりを深めていく。 育みたい資質・能力について理解し、子どもの育ちを伝える。	園長を補佐し、地域との信頼関係を築き、地域の特性を活かした園づくりを進める。 育みたい資質・能力について理解し、カリキュラム等の見直しを図る。	地域との信頼関係を築き、地域の特性を活かした園づくりを進める。 育みたい資質・能力について理解し、園内外に積極的に働きかける。	